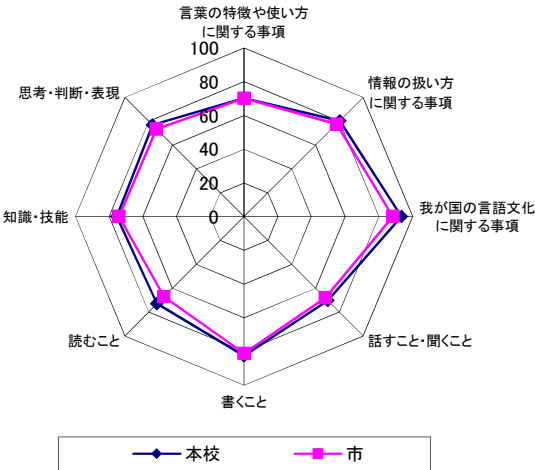


宇都宮市立河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.4	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	80.3	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	93.4	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	70.4	68.2	67.4
	書くこと	82.5	81.1	71.7
	読むこと	73.1	67.2	61.3
観点別	知識・技能	75.4	74.2	67.9
	思考・判断・表現	76.7	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

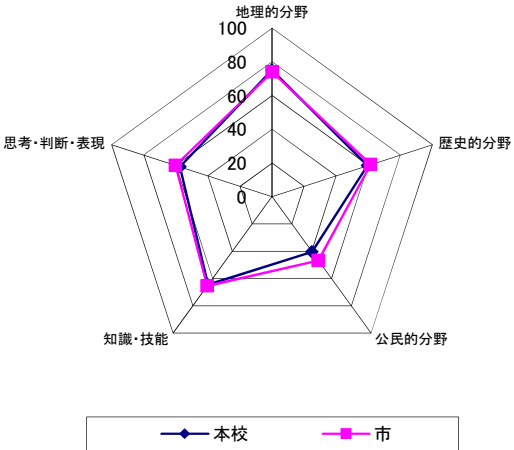
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○全体的には市の正答率を0.2ポイント上回った。特に、小学校で学習した漢字の書きでは、市の正答率を大きく上回った。 ●助動詞、類義語、敬語の理解について、市の正答率を、助動詞の理解は9.1ポイント、類義語の理解は3.5ポイント、敬語の理解は1.9ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字の読み書きについては、引き続き小テスト等を通して定着を図っていく。また、漢字を練習する中で、その意味や類義語にも触れながら指導していく。 助動詞の理解については、演習問題を通して、識別技能を高めていく。 敬語については、日常生活に関連させて、敬語の理解や定着を図っていききたい。
情報の扱い方に関する事項	○全体的には、市の正答率を2.7ポイント上回った。特に、情報と情報の関係について理解し、論理の展開を捉える問いについて、市の正答率を8.4ポイント上回った。 ●情報と情報の関係を理解し、自分の考えを分かりやすく伝わる文書になるよう工夫する問いについては、市の正答率を3.1ポイント下回った。	説明的な文章において、全体の構成及び段落と段落の関係を理解することを通して、情報と情報の関係の理解を深めていきたい。また、自分の考えを述べる対話や短文づくりを通して、自分の考えを分かりやすく伝える技術を高めていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	○全体的には、市の正答率を5.1ポイント上回った。特に、現代語訳を手がかりに古典を読む問いについては、市の正答率を6.6ポイント上回った。 ●歴史的仮名遣いについての問いの正答率は、90.9%と高い正答率であるが、この数値を維持していく。	歴史的仮名遣いの理解は古典を読む基本であるので、音読等を通して歴史的仮名遣いを読む(現代仮名遣いに直す)指導を続けていきたい。また、現代語訳を手掛かりに古典を読むことは古典を親しむことにつながるので、今後も理解を深めるために現代語訳と対応させた古文読解の指導を続けていく。
話すこと・聞くこと	○全体的には、市の正答率を2.1ポイント上回った。特に、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫していることを聞き取る問いについては、市の正答率を10ポイント上回った。 ●話の展開を予測しながら聞き、自分の考えを深める問いについては、市の正答率を2.6ポイント下回った。	話を聞き取ることについては、ほぼその技能は習得しているので、今後は聞き取ったことから自分の考えを述べる場面、交流する場면을意図的に設定し、自分の考えを深める力を養っていききたい。
書くこと	○全体的には、市の正答率を5.9ポイント上回った。特に2段落構成で文章を書く問いは2.7ポイント、自分の考えを明確にして書く問いについても、2.8ポイント、市の正答率を上回った。 ●自分の考えが分かりやすく伝わるように文章を工夫する問いについては、市の正答率を0.3ポイント下回った。	自分の考えや感想、筆者の主張等について、字数を指定して文章を書く機会を増やし、様々な課題に対応できるような指導を続けていきたい。また、自分の考えが分かりやすく伝わるようにするために、文章の構成や表現方法にも触れながら指導を続けていく。
読むこと	○全体的には、市の正答率を5.9ポイント上回った。文学的な文章の表現の仕方についての問いは、市の正答率を7.2ポイント上回った。 ●文章を読んで考えを広げたり深めたりする問いについては、市の正答率を2.4ポイント上回ったが、正答率をさらに上げることが課題である。	文学作品の読解については、物語の展開に即して登場人物の心情や情景描写をとらえながら、表現の特徴や表現の工夫についても指導していきたい。また、文章を読んで考えを広げたり深めたりすることは、読む楽しさを知ることにつながるので、合わせて指導していきたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	75.0	74.0	67.9
	歴史的分野	59.5	61.5	56.1
	公民的分野	40.4	46.9	40.7
観点別	知識・技能	64.6	65.5	60.6
	思考・判断・表現	57.5	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

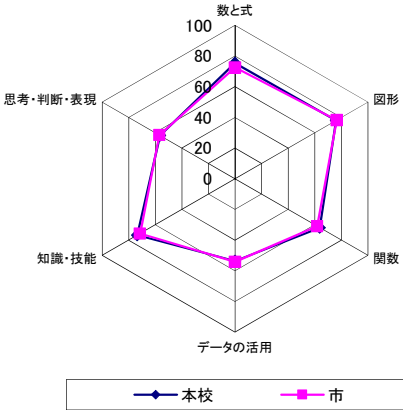
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	地理的分野の領域別正答率は市平均よりも1ポイント上回った。 ○「日本の諸地域」に関する内容で、九州、中国・四国、近畿地方の産業に関する特色について考察する問題では、校内正答率が市正答率よりも5.2ポイント上回った。 ●「日本の諸地域」で、九州、中国・四国、近畿地方の工業に関する特色についての理解に関する問題では、本校が市正答率よりも4.3ポイント下回った。	地理的分野では、思考・判断・表現に関する問題の正答率が市正答率よりも概ね高い割合を占め、全国正答率よりも大きく上回った。内容別では、「日本の諸地域」の問題で低い正答率となった。基本的な内容を捉えさせ、理解力の向上に努めていきたい。
歴史的分野	歴史的分野の領域別正答率は市平均よりも2ポイント下回った。 ○「近世の日本」に関する内容で、江戸幕府の大名統制についての理解に関する問題では、校内正答率が市正答率よりも10ポイント上回った。 ●「近世の日本」で、大阪の繁栄について、まとめの文章に着目して考察する問題では、本校が市正答率よりも13.6ポイント下回った。	歴史的分野の思考・判断・表現に関する問題の正答率は、全て市正答率を下回った。また、4問中3問が全国正答率を下回るなど、大きな課題が見られた。特に、蘭学や天下の台所と呼ばれた大阪、享保の改革など、江戸時代の内容に関する問題で正答率が大きく下がっている傾向がある。時代ごとの改革の内容について、共通点や相違点を見出してまとめさせるなど、指導の工夫を図りたい。
公民的分野	公民的分野の領域別正答率は市平均よりも6.5ポイント下回った。 ○「人間の尊重と日本国憲法」に関する内容で、日本国憲法の三つの原理の理解に関する問題では、校内正答率が市正答率よりも、0.5ポイント上回った。 ●「人間の尊重と日本国憲法」で、公共の福祉についての理解に関する問題では、本校が市正答率よりも10.3ポイント下回った。	公民的分野はその多くが市正答率を下回っていた。特に日本国憲法の特徴や憲法が保障する人権に関する問題で低い正答率が多くあった。現代社会の特色などを踏まえて、憲法が保障するさまざまな人権についてよく整理させるなど、内容の定着を図りたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.4	72.5	71.3
	図形	76.0	76.5	68.1
	関数	63.8	61.7	50.3
	データの活用	53.6	54.2	43.5
観点別	知識・技能	73.6	71.5	66.7
	思考・判断・表現	56.4	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

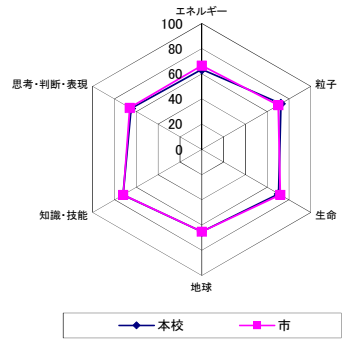
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	領域全体としては、平均正答率が75.4%と市の平均正答率より2.9ポイント高い。 ○「平方根の考えを利用して二次方程式を解く」では、市の平均正答率より7.8ポイント高い。 ○「かっこを含む多項式の計算ができる」では、91.8%の平均正答率で、市の平均より6.9ポイント高い。 ○「根号を含む式の乗法ができる」、「加減法で連立方程式を解くことができる」でも、市の平均より5.6ポイント、5.1ポイントと高い。 ●「正負の数を利用した仮平均について説明することができる」では、市の平均より3.5ポイント低い。 ●「平方根の考えを利用して二次方程式を解く」や「乗法の公式を使って式を簡単にすることができる」では、市の平均より高いが、全国平均と比べると15.1ポイント、8.9ポイントと低く、差が大きい。	基本的な計算問題の正答率は高く、定着しているようである。しかし、根号を含む計算や二次方程式、平方根の計算になると正答率が下がり、まだ理解が十分ではない部分が出てくる。 今後は、ドリル学習など反復する学習だけでなく、計算方法や計算順を友達に説明させるような時間を設け、筋道を立てた考え方の育成や言語活動の向上につなげる授業改善が大切であるとする。また、文章を読み取る能力も重要であるため、他教科との連携を図っていくことも重要である。
図形	領域全体として、市の平均正答率とほぼ同じである。 ○「三角形の合同条件について理解している」では、市の平均より7.8ポイント高く、85.7%であった。 ○「仮定の指す内容について理解している」では、市の平均より2.5ポイント高い。 ●「垂線の性質を理解し、三角形の高さを表す線分を作図する」、「図形を回転移動させたときの図形が重なる角度を求める」、「多角形の内角の和の性質を理解している」では、4.9ポイント、4.8ポイント、4.1ポイントとすべて市の平均より低い。	知識・技能の分野においては、おおむね理解できており、正答率も高い。しかし、筋道を立てて論理的に考える問題においては苦手意識をもつ生徒もおり、自分なりに理解できるまで深く考えようとする生徒の育成が大切である。 今後は、生徒の理解を高めるような学習プリントの作成や筋道を立てて説明するような授業展開など、生徒一人一人が分かったと実感できる授業を心掛けていく必要がある。
関数	領域全体として、市の平均正答率より2.1ポイント高い。 ○「ある1次関数のX軸、Y軸との交点からできる三角形について、面積を求めることができる」では、市の平均より9.4ポイント高い。 ○「グラフを用いて、総費用が安くなる場合を説明する」記述の問では、市の平均より6.3ポイント高い。 ○「1組のXとYの値からXの2乗に比例する式を立式する」では、市の平均より5.2ポイント高い。 ●「5年間使用したときの総費用を求める」では、市の平均より4.8ポイント低く、「1次関数を表す表から傾きや切片の値の正負を判断し、正しいグラフを選ぶ」では、市の平均より3.6ポイント低い。	関数は4つの領域の中で最も苦手意識をもつ生徒が多く、「関数とは何か」、「比例と1次関数の違い」、「グラフを読み取る力・グラフを利用して考える力」など、関数は今まで学んだ知識を様々な場面において活用する能力が必要である。 今後は、「どのような場面で公式が利用でき、答えが求められるのか」や「どのような過程を経て正解が求められたのか」を友達やクラスに説明できるような授業展開（ペア学習やICTを取り入れた）を工夫していく必要がある。生徒同士で学び合うことをとおして、考える筋道や視点、数学的な用語を用いて説明する能力も高めていきたい。
データの活用	領域全体として、市の平均正答率とほぼ同じである。 ○「ヒストグラムから中央値を読み取り、含まれる階級の階級値を選ぶ」では、市の平均より5.8ポイント高い。 ○確率の問では、市の平均とほぼ同じであったが、「7個の玉から1個を取り出すときの確率」では87.8%の平均正答率であった。 ●「箱ひげ図から読み取れないものを判断する」では、市の平均より11.3ポイント低い。 ●「四分位範囲を求める」では、市の平均より2.4ポイント低い。	各学年で学習する単元としては最後であり、同一学年で学習する単元とのつながりよりも学年間でのつながりがある学習内容のため、繰り返し復習する機会が他の領域より少ない。また、日常生活においては関わりの多い内容ではあるが、授業において意識的に取り上げていかなければ忘れてしまう可能性のある内容でもある。 今後は、数学の授業のために用意された問題だけ取り組ませるのではなく、日常生活の中から課題を見つけ、度数分布表や箱ひげ図の作成や読み取り、確率の学習の楽しさなどを実感できる授業展開を心掛けていく必要がある。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	63.5	66.5	61.2
	粒子	72.4	70.2	62.3
	生命	70.4	71.8	65.7
	地球	65.3	65.4	61.0
観点別	知識・技能	72.2	72.0	67.3
	思考・判断・表現	64.8	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

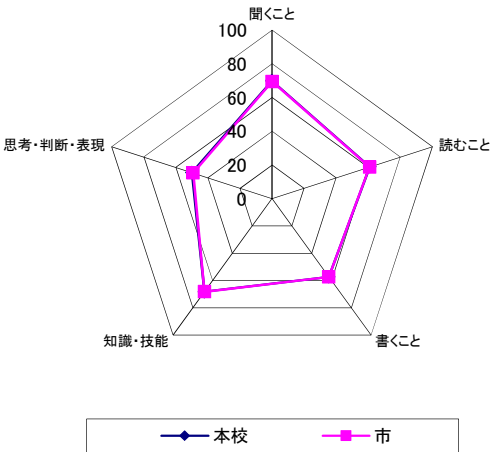
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、他の領域と比べ最も低く、昨年より4.4ポイント下回っている。市平均からも3.0ポイント下回っている。 ○ 2つの音叉の間に板を置いたときに、音が伝わりにくくなることを推測する問題では、正答率が83.8%と高く、思考力もついていることが分かる。音の波形から音の高さを推測する問題についても、72.7%であった。実験を通して気づける現象と知識が結びつきやすいため、体験を通しての理解が進んだものと思われる。 ● 消費電力の小さいLED電球を使うことで節約できる電力量を求める問題では正答率が48.5%と低い。論理的思考を伴う計算問題に課題が見られる。慣性によって等速直線運動が起こることを推測する問題の正答率も51.5%と低い。習得した知識を用いて推理するという論理的思考力に、依然として課題が見られる。	学習によって習得した知識や収集したデータをもとに、論理的に思考する力を使って課題を解決するために、必要なデータを収集する力、そのデータを使って論理的に考え、結論を導き出して解決していくという活動を行ってほしい。 学習した知識が日常生活の中で役立っていることを気づかせるために、学習内容が日常生活の中でどう利用されているのかを、知識の習得と同時に紹介していききたい。
粒子	平均正答率は、他の領域と比べ最も高い。昨年度とほぼ同じであり、市平均より2.2ポイント上回っている。 ○ 中和のしくみについて答える問題では、正答率が79.8%であり、市平均を13.1ポイント上回っている。BTB溶液の色から液の性質を区別する問題の正答率が85.9%。また、気体の性質に関する問題全体の平均正答率が83.5%と高いが、すべて基本的な知識を答えるもので、一問一答式の問題に対する強みが発揮されている。 ● 化学実験の結果を基に正しい考察をする問題では、市平均を2.4ポイント上回っているものの、平均正答率が54.5%とやや低い。学習した知識が邪魔になって判断を誤らせてしまう記述式問題は苦手である。メスシリンダーの目盛りを正しく読む問題では、正答率が57.6%とやや低い。最小目盛りの10分の1まで目分量で読むということがなかなか定着しない。	実験結果を見て、そこから分かることと分からないことを区別できる洞察力を、体験を通して身に付けさせたい。 実験のときの注意点や器具の使い方には、それぞれ意味があることを理解させた上で実験をさせたい。 学習した知識が日常生活の中で役立っていることを気づかせるために、学習内容が日常生活の中でどう利用されているのかを、知識の習得と同時に紹介していききたい。
生命	平均正答率は、「粒子」に次いで70.4%であるが、昨年度より6.9ポイント下回っている。市平均と比べても1.4ポイント下回っており、この値は「エネルギー」の次に低い。 ○ 柔毛や根毛のつくりの利点を説明する問題では、市平均を2.6ポイント下回っているものの、正答率は73.7%とやや高い。記述式問題でも、答えが定型のものは、そうでないものに比べてやりやすいようだ。また、シダ植物とコケ植物に関する問題は、正答率が80%を超えている。基本的な知識を答える一問一答式の問題は得意の傾向がある。 ● 孫の代の種子の遺伝子の組み合わせを考える問題は正答率が55.6%とやや低く、計算力と論理的思考力の両方を使う問題への課題が見られる。また、被子植物の花が目立つ色や形をし、昆虫や鳥などの動物を引きつけている理由を説明する問題では正答率が62.6%とやや低く、市平均と比べて6.2ポイント下回っている。自由度の高い記述式問題は苦手のようにある。	覚えた用語は、それぞれ関連しており、単一の用語としてではなく関連したグループとして把握していくこと、そしてそれをもとに論理的に考え、自分の考えを人に伝える能力を育成するため、調べたことをもとに自分の考えをまとめ、それをもとにグループで討論しながら課題を解決する活動を行ってほしい。 学習した知識が日常生活の中で役立っていることを気づかせるために、学習内容が日常生活の中でどう利用されているのかを、知識の習得と同時に紹介していききたい。
地球	平均正答率は、市平均とほぼ同じであるが、昨年度より7.6ポイント下回っている。 ○ 寒冷前線の記号やできる雲の種類についての問題など、覚えたものを書くことについては、80%前後の正答率であった。市平均も上回っている。 ● 無色鉱物について答える問題では、正答率が39.4%と低く、市平均を9.4ポイント下回っている。マグマのねばりけと火山の形を関連付ける問題の正答率も51.5%とやや低い。火山については知識の定着が不十分のようである。	地球に関する単元は、各学年の最後に学習することが多いため、知識の定着が他の単元に比べてされにくい。したがって、知識定着への工夫を十分に行う必要がある。 学習した知識と日常生活を関連づけさせるために、学習内容が日常生活の中でどう利用されているのかを、知識の習得と同時に紹介していききたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.8	69.4	63.8
	読むこと	61.0	60.8	55.6
	書くこと	57.4	57.5	47.8
観点別	知識・技能	68.2	68.3	64.1
	思考・判断・表現	49.9	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○市の平均正答率を5.9ポイント上回っている。 ●対話の内容を聞き、その意味を理解して資料をもとに英語で答える問題では、市の平均正答率を6.0ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの リスニングの問題の中で、グラフを読み取りながら聞き取る問題を多く取り入れていきたい。また、音読指導を工夫し、つながりのある音や消える音を理解し、聞き取れるよう指導していきたい。
読むこと	○市の平均正答率を0.2ポイント上回っている。 ○文法に関する問題と英文の概要を捉えて適切なものを選ぶ問題は、それぞれ市の平均正答率を1.3ポイント、3.6ポイント上回っている。 ●資料の情報をもとに、適切な記号を選ぶ問題は、市の平均正答率を0.3ポイント下回っている。	英文の概要を読み取りながら適切なものを選ぶ問題では、適切でないものの根拠を明らかにすることや、資料の情報や条件を正確に読み取れるように、教科書にある資料を有効的に使う指導を行いたい。
書くこと	○市の平均正答率を5.9ポイント上回っている。 ○テーマに沿って、3文以上書く問題や好きな季節とその理由を正確に書く問題では、それぞれ10.2ポイント、7.5ポイント上回っている。 ○どの問題も市の平均正答率を上回っている。	今後も自分自身に関する内容の英作文や条件英作文を書く練習を積み重ね、文法や語順の指導に努めていきたい。

宇都宮市立河内中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
考える力を育む言語活動の充実	自分の考えなどを文章にしたり説明したりするとき、まずは定型のまとめ方・言い方を使っている、慣れてきたら自由度を増していく。	国語の記述式問題に於いて、ほとんどの問題で本校正答率が75%を超え、市正答率も超えている。しかしながら、字数が40字と多くなると、本校正答率は60.6%と低くなり、市正答率を2.6ポイント下回っている。
対話的な学びを通して考えを広げ深める授業の展開	話し合い活動を含む「学び合い」の場면을積極的に授業に取り入れていく。 ICT機器を利用した話し合い活動を積極的に取り入れる。 「自分の思いや考えを話す」「根拠をもって話し合える」に重点を置き授業を計画し実践していく。	「グループなどでの話し合いに進んで参加している」に肯定的に回答した生徒の割合は80%以上であった。 「パソコンで自分の考えや調べたことを伝えることができる」に肯定的に回答した生徒の割合も80%以上であった。ただ、3年生においては、80%を切り、市肯定割合を8.2ポイント下回った。 1年生では、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した割合が80%以上であった。1・2年生では70%弱で、3年生では、市肯定割合を4.4ポイント下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・国の調査において、既習内容の見直し・復習についての肯定的回答が70%を切ったが、市の調査においても、全ての学年において「新しく習ったことを繰り返し練習」、「分かった点・分からなかった点を見直して次の学習につなげる」、「習ったことを復習」についての肯定的回答が30%～70%未満で、低い結果となっている。家庭学習の時間確保及び授業内容についての反復練習や振り返り、復習などを自主的に取り組ませることを目的とし、次年度は水曜日を『家庭学習の日』として指導を充実させていく。

・全ての学年において、「インターネットやパソコンを利用して学習に関する情報を得ている」についての肯定的回答が80%を超えている。1・2年生では「パソコンを使って自分の考えを伝えることができる」についての肯定的回答が80%を超えている。面と向かっての意見発表には躊躇するものの、パソコンをととしての意見発表はある程度できることを踏まえて、ICT機器を利用した話し合い活動の積極的実施は、次年度も続けていきたい。

・市の調査において、「いろいろな種類の本を読むことは楽しい」と肯定的に回答している生徒が、全ての学年で80%を超えているにもかかわらず、読書時間について平日、土日に20分以下である生徒の割合が60%を超えている。「本を利用して学習に関する情報を得ている」についての肯定的回答が1・3年生では40%前後、2年生では20%台であることから、言語活動に必要な力を少しでも身に付けるための読書時間を確保するため、『朝の読書の時間』は次年度も設定したい。